第 40 号
2025.3.6

みいつけた！

福岡県保育協会通信

By mutual confidence and mutual aid,
Great deeds are done, and great discoveries made;

相互信頼と相互扶助にて、偉大なる行為はなされ、偉大なる発見がなさる。

ーギリシアの詩人 ホメロス

第 72 回筑後地方保育事業研究大会報告 ---------- 2
第 61 回京築ブロック保育研究大会報告 ---------- 3
第 57 回全国保育士会研究大会（高知大会）---------- 4
第 43 回全私保連青年会議全国大会（東京）---------- 6
新園紹介 ---------- 7
子どもの声がはっきり聞こえる音環境へ ---------- 8
公立発信 ---------- 10
コラム・編集後記 ---------- 11

公益社団法人
福岡県保育協会

https://www.fphk.jp/ 福岡県保育協会 で 検索

第 72 回筑後地方保育事業研究大会報告

木佐木保育園 園長　塚本 泰有

わくわくのわをひろげよう

令和６年９月１日、第 72 回筑後地方保育事業研究大会が「サザンクス筑後」にて開催されました。新型コロナ感染症により、一時は大会の中止を余儀なくされ、或いはオンラインやハイブリッド方式などで開催されてきた５年間でしたが、昨年度、感染症が５類に分類されたことから、今年度は６年ぶりに集合型形式での開催が実現しました。

しかし、大会前日は台風 10 号が未だ中部地方で勢力を保ち、東京からの講師の来訪が厳しい状況にあり皆で心配していたところ、夕刻、講師からの電話が鳴り、「明日は来ます」の一言に関係者一同小躍りしたのは言うまでもありません。

会場には、ご来賓 40 名と筑後地方２１０園より約 1,100 名の保育関係者のご参加をいただき、会場は久しぶりの熱気に溢れました。大会式典では、多くのご来賓の中、福岡県知事（代理　福岡県福祉労働部長福田邦裕様）よりご祝辞を賜りました。又、地元、筑後市、大川市、大木町の二市一町を代表し、大木町長である広松栄治様より歓迎のお言葉を、更に衆議院議員の、藤丸敏様、鳩山二郎様より夫々ご祝辞を賜りました。

また、表彰式では、65 名の被表彰者の皆様が永年の保育事業への貢献に対し、万田会長より栄えある会長表彰を授与され、今後の益々の活躍を期待されました。

記念講演の講師は、先ほど紹介した、台風 10 号の上空を飛んで九州の地に舞い降りられた、玉川大学教育学部教授である大豆生田啓友先生です。こども家庭庁有識者会議、TV 出演や講演会等で超ご多忙な毎日を送られている先生のお話は、さすがの語り口と内容でした。

講演の冒頭より、台風の上空の飛行機がかつて経験したことがない程揺れた様子をユーモアたっぷりに語られながら本題に入っていかれます。

「子どもが中心の共主体の保育へ」の演題で、子どもがワクワク、保育者がワクワク、保護者がワクワク‥の保育が、子ども主体のワクワクサイクルを作っているのですと語られました。また、多くの事例を紹介しながら分かりやすく「子ども主体」や「共主体」の核心を説かれ、集まった参加者にとって予定の一時間半はあっという間に過ぎてしまいました。

「従来型の保育」から、居心地の良い「子ども主体の保育」への転換を目指している保育園が多くなっている一方、転換時の問題として、現在の年間行事や生活の見直し、保護者の理解を得ることなど課題は少なくありません。講演では、それらを乗り越える為の多くのヒント・アドバイスをいただき、心強いサポートを得た思いがしました。

ドキュメンテーションの効果では、それを導入した園で、保育者が子どもの興味により関わろうという姿勢が出てきた事例、子ども自ら遊びの発展に繋がった事例、保育者同士、又は保護者とのコミュニケーションが活発になった事例等、導入によって保育者の「保育の質の向上」につながっているという話等、改めてドキュメンテーションの効果について再認識することができました。

保育園での虐待や不適切保育が大きな社会問題となっていますが、過剰な「きまり」や「しつけ」が多い保育、「できたか、できないか」ばかりが指摘される管理型の保育は、不適切な保育が起きやすい。又「～せねば」「～であるべき」という一律的な価値意識での過剰な安全管理重視も逆に不適切保育のリスクを高めてしまうそうです。

「子ども主体の保育」の実現には、子どものワクワク感や職員のワクワク感の醸成と共に、園の保育理念や職場の人間関係、そして風通しの良さ等が問われていると感じました。

先生から「子どもを（人間としてみる）保育をしていますか？」「赤ちゃんに（あなたはどうしたいの？）と心の声を聴いてあげていますか？」と、会場への問いかけがありました。

私は、果たして自分は尊厳をもって子どもと接しているだろうかと自問しました。大豆生田先生のお話は私たちの脳にダイレクトに響いてきます。

先生のご講演はエネルギッシュで、聴く者の心をグッと捉える迫力がありました。ご参加いただいた先生方は、大豆生田先生の熱き信条と肉声による講演を聴講され、「子ども主体の保育」と保育の専門性について改めて考える貴重な機会になったことと思います。改めて大豆生田先生に感謝いたします。

結びになりますが、本大会の開催にあたり、ご後援をいただきました筑後市、大川市、大木町にお礼を申し上げます。又、開催地、筑後中部地区保育協会の実行委員の皆様のご尽力、そして当日会場に足を運びご参加くださいました筑後地方の先生方を初め関係各位のご協力により本大会を無事に開催できましたことに改めて心より感謝を申し上げます。

第６１回京築ブロック保育研究大会報告

おおぞら認定こども園 副園長　清水 健明

― 輝け☆保育者！こどものウェルビーイングを高めるために！ ―
『垣根を越えて手を取り合い、一丸となって子ども達と歩む』

令和６年 11 月３日 (日)、第 61 回京築ブロック保育研究大会が行橋コスメイトにて開催されました。

コロナ明け２回目、集合型大会での開催となり保育関係者約 350 人が集う大会になりました。

沢山の来賓の方々や保育関係者の方々から温かい祝辞を頂き、尽力して頂いた大会役員、実行委員、京築地方理事会の理事や参加して頂いた皆様に、無事に大会を開催できた事を心から感謝申し上げます。

こども家庭庁発足後「こども大網」が閣議決定され、この「こども大網」の具体的な取り組みとして令和 6 年 5 月に「こどもまんなか実行計画２０２４」が決定されました。

日本が激動の時代へ突入していくさなか、社会の変化や歪みはこども達の生活環境にも大きく影響を与えてしまいます。「こどもまんなか実行計画２０２４」を取り組むにあたり、こども達の道標となるべく保育者が輝き、こども達の生活環境を高め、みんなが前に進める世の中になって欲しいという想いから大会テーマを決めさせて頂きました。

今大会の一般表彰では、１５名の方がその功績を称えられ、万田会長から表彰を受けました。今後も多くの先生方が活躍し、こども達の輝く星となってくれることを期待しています。

記念講演では「ハロー！あそびうたセミナー」と題し、会場のみんなが楽しめて普段の保育に役立てるようにと講師に「プッピーズ」の３人をお迎えし、歌って踊って手遊びして楽しいコンサートの時間を過ごしました。コンサートでは実行委員や園長などもステージ上に呼ばれ、プッピーズのペースに巻き込まれながら踊ったり遊びを一緒にしたりと笑顔に包まれ会場が盛り上がっていきました。

内容も明日から保育の実践に活かせるような、楽しい言葉遊びやふれあい遊び、ハンカチを使い全身を動かして遊べるようなハンカチ遊びなどもあり「明日から実践してみたい」という声も聞こえ有意義な時間になったのではないかと感じています。

結びに、混迷を深める時代となっていく中、我々保育者が担う役割がどんどん大きくなっていく気がしています。「こどもまんなか社会」という様に、地域と保護者と保育者のみんなが、小さなことに捉われず、こどもを中心に繋がり一丸となって安心安全な社会を築いていける事を心から願っています。

※ウェルビーイング「個人や社会のよい状態。健康と同じように日常生活の一要素であり、社会的、経済的、環境的な状況によって決定される」

第 57 回全国保育士会研究大会（高知大会）

福岡県保育協会保育士会調査研究部会 部長　平河 九十美

第 57 回全国保育士会研究大会に寄せて

福岡県保育協会保育士会調査研究部会は、1996 年（平成 8 年）に福岡県内保育士会が福岡市、北九州市、福岡県と 3 つに別れた時に、県の代表として全国大会での発表の依頼を受けたことがきっかけで発足しました。

全国保育士会主任保育士・主幹保育教諭特別講座の受講者を中心とし、筑後・筑豊・福岡・京築地区から集まって、保育者のレベルアップと保育所全体の資質向上に繋がることを願い研究に取り組んでいます。

これまでの主な研究を紹介します。

調査研究部として積み上げてきたこれらの研究内容をもとに、令和 6 年 11 月 21 日・22 日高知市で開催された第 57 回全国保育士会研究大会において、『「挑戦させたい！」と「あぶない！」の狭間で子どもの育ちを考える－「ルーブリック型保育環境評価票」並びに「身体活動量計測」より－』をテーマに研究発表をいたしました。応援のために参加して下さった福岡県保育協会保育士会の仲間達の温かいまなざしを受けて、無事に発表を終えることができました。

○気になる子どもの支援について
○全園児対応の「保育士の子どもを見る目を育てる発達検査シート」
○保護者との対応の仕方をまとめた「保育所（園）における支援の手引き」
○「身体を動かして遊ぶ楽しさを子ども達に
　－心と身体の発達を促す保育者のかかわりに向けて－
　実態調査報告及び実践研究のまとめ」
上記 4 冊を作成し県内の保育所（園）に配布しました。

○保育の喜びを共有するために－連絡帳を手がかりとした保育の視点の拡がり－について
（現在、書籍として作成中）

〈助言者 大方美香先生を囲んで〉

この研究について報告します。

近年、保育を行うなかで思いもよらない場面で起きるけがや事故に遭遇することが多くなりました。4・5 歳児になっても身体が十分に発達しておらず、巧みな動きが苦手な子どもが増えてきたと感じます。それは、安全な環境に対する評価が過剰になり安全ばかりに目がいき、子どもの行動を制限していることも原因の一つではないでしょうか。

歩行が始まり、活動が活発になってくる 1・2 歳児の子どもは様々な環境に興味を持ち行動範囲が広がります。大人は、思いがけない行動をとる子どもの姿に対して、「挑戦させたい」と思いながらも、子どもの安全面を重視し、けがや事故から守るために「危ない」と制限をします。その「挑戦させたい」と「危ない」の狭間で、子どもたち一人ひとりに適した環境を作り出す保育者の専門性について明らかにしたいと研究を進めてきました。

ルーブリック型環境評価票を用いて子どもの生活する姿を把握し、保育者の子どもを捉える視点に違いがあることが分かりました。他の保育者の子どもの見方を共有することで視野の拡がりや、多様性を知ることができ、保育者の考え方も拡がっていきました。

身体活動量計測では、運動と生活の区別があいまいな 1・2 歳の子どもの身体活動を科学的に見ることによって、保育者の気づきとは異なる子どもの姿を捉えることができました。

この結果をもとに環境整備・保育内容の充実・保育者の専門性について、考察を行いました。

健康で安全な子どもの育ちを考える際には、事故防止の「守る目」とともに発達の機会を制限することがないように「育てる目」も必要です。安全に配慮しながら、そのうえで子どもが主体的に遊べる環境を整える事が基本です。安心と危険の狭間を上手に活かして、子どもの行動を「あぶない」と制止する前に、子どもが遊びこめるような環境を整えること。個別の計画や個々に応じた環境の構成を見直し、改善をはかることにより、専門性の向上に努め、高いチーム保育につながるのではないかと考えます。

保育を科学的に見ることは、とても難しく感じるかもしれませんが、保育者が心にとどめていたことを振り返り掘り起こして、それを保育者間で伝え合う。このことが自己理解につながり専門性の高いチーム保育へとつながっていくのではないでしょうか。

本研究はまだまだ道半ばです。現在も「視線測定器」を用いて、保育者の注意の向け方が、保育観や子どもとのかかわり方と、どう関連するかについて検討を進めています。

今後も保育における安全と、子どもが主体的にのびのびと遊べる環境の構成について継続して学び続けたいと思います。

本研究にあたりいろいろとご協力・ご尽力いただいた施設長の先生方、職員の皆様に紙面を借りてお礼を申し上げます。

「保育の喜びを共有するためにー連絡帳を手がかりとした保育の視点の拡がりー」の研究が本になります！！ミネルヴァ書房より「連絡帳スタディブックー家庭に寄り添う保育をめざしてー」が春頃に発行される予定です。保育者の専門性の向上を目指したポイントがぎゅっと詰まった内容になっています。

保育士会会員園に 1 冊ずつお届けする予定です。楽しみにお待ち下さい。

第 43 回 公益社団法人全国私立保育連盟青年会議 (東京大会)

幼保連携型認定こども園 おんがの 園長　星岡 剛

CORE
～こどもたち、ど真ん中～

2024 年 9 月 5 日～ 6 日の 2 日間にわたり、第 43 回公益社団法人全国私立保育連盟青年会議東京大会が東京都新宿区の京王プラザホテル及び新宿ＮＳビルにて開催されました。

すべての子どもの幸せの実現のために「こどもまんなか社会」へと進む日本において、私たち保育者がこどもたちのより良い未来の懸け橋となり、こどもの声をもっと社会に届けていく必要があるとの想いから、大会テーマは「CORE ～こどもたち、ど真ん中～」となっていました。

大会 1 日目は、獅子舞や曲芸を中心とした江戸太神楽 (えどだいかぐら) のオープニングアクトで幕を開け、開会式が行われました。その後、公益社団法人全国私立保育連盟　常務理事の齋藤勝氏より情勢報告があり、第 1 ～第 7 分科会に分かれての研修となりました。

私は第 7 分科会に参加いたしました。「未来の保育園･こども園の展望」をテーマに、パネリスト 4 名 (社会福祉法人協愛福祉会理事長　横山和明氏／社会福祉法人山ゆり会理事長　松山圭一郎氏／川内すわこども園 SECOUND 園長　帯田英児氏／社会福祉法人種の会理事長　片山雄基氏) を迎えての､パネルディスカッション方式で進められました。

こども家庭庁の設立や「こどもまんなか社会」の実現など、こどもと我々を取り巻く行政、制度、社会意識等の大きな変化の中で、保育園やこども園としてどのような変化が起こり、また求められていくのかといった問題提起を中心に進められていきました。

全国的にこどもの数が減少していく事が予想される中、施設として法人としてどのように生き残っていくのかといった議題では、各パネリストが現在まで実践してきた内容や、今後、施設もしくは法人として、どのような事を社会から求められてくるのか、それにどう応えていくべきかについて、各々の考えが語られました。

その中で、今後さらに重要な役割として我々に求められることへの 4 名の共通した考えは、「地域の子育て環境構築において、いかに施設及び法人が中心的な役割を果たせるか」であり、この分科会を通して、今後の自園、自法人が取るべき行動のヒントが掴めたように思えます。

こどもの利益確保と保護者ニーズへの対応はもちろん、新たな子育て支援の場の創造、人材確保や人材育成、労働環境の整備等まさに施設の運営側として思い悩んでいる事柄についても、登壇者のみならず分科会参加者からも話題に挙がり、各々がそれぞれの施設や法人の規模に合わせて対応していることを感じました。同時に、私自身も自園や自法人の今後の取り組みについて、もう一度考える良い機会になりました。

大会 2 日目は、こども家庭庁保育政策課　教育・保育専門官の馬場耕一郎氏より、今後の処遇改善等加算や地域区分、こどもまんなか社会実現のための今後のアクションに関する事を主軸とした行政説明がありました。

その後、東京大学名誉教授である汐見稔幸氏と、タレントであり保育士資格、幼稚園教諭二種免許も所持するつるの剛士氏の 2 名による記念講演が行われました。テーマを「CORE を支える大人たち～こどもたちど真ん中へ～」とし、前半は汐見氏による講演、後半は汐見氏とつるの氏による対談方式での講演で進められました。

対談方式による講演では、幼稚園の非常勤講師としての経験を持つつるの氏を交えることで、汐見氏から語られるこれからの制度や概念の面だけでなく、つるの氏が現場で実際に感じた事、現場からの視点や考えを踏まえた上で、いかにこどもたちを主体として捉え、この先の社会の CORE とするには、我々大人が今からどうするべきなのか等が幅広く語られ、非常に興味深い内容の講演となりました。

終わりに、今大会への参加を通して、自らの教育・保育に対する考え方を振り返る良い機会を与えて頂きました。思い悩んでいるのは自身だけではなく、立場を同じくする多くの方々も同様に悩み、そして乗り越えていくために今できることを全力で行っていることを改めて感じることができました。大会実行委員会の先生方をはじめ、大会開催にご尽力いただきました全ての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

新園紹介

自分に感動できる子どもたちを育てませんか

幼保連携型認定こども園　バディスポーツ幼育園　博多南校

バディスポーツ幼育園は、1992年福岡県筑紫野市に産声をあげ、その後2004年に、当時那珂川町五郎丸にて博多南校が開園し20年が経過いたしました。この度、那珂川市　博多南校では念願の新園舎を建設いたしました。【園舎全体が遊び場】『スポーツ・保育・幼児教育を通して、子どもを育て、親を結び、地域と歩む』をコンセプトに設計いたしました。
そして、令和6年度4月から幼保連携型認定こども園になり、0歳1歳2歳の預かりが可能になり、0歳から6歳までの6年保育がスタートいたしました。

バディでは、神経系が著しく発達すると言われている0歳～9歳の間に、スポーツと保育を通してコツコツと頑張る心や、逆上がり・跳び箱・スキー・スケートなど、出来た時の喜びや達成感を味わえるように取り組んでいます。

また、季節に応じて公園を選び、園のバスで園外活動に出かけます。
子どもたちは毎日が遠足のような「ワクワク・ドキドキ」した気持ちで、自然や野山を駆け巡り、五感を使って四季を感じ、自分の目・耳・鼻で確かめる事で、神経系が刺激され、受け身的で依頼心の強い子ではなく、自発的活動を育て「やる気を起こす」を力点に創造性に富んだ好奇心の強い子、何でもやってみたがる積極的な子に育つよう日々関わっています。

「地球が園庭」、このような活動をするには、那珂川市の自然・野山を駆け巡る環境が最適な場所でした。

【園舎全体が遊び場】

さて、ここからは令和6年４月に完成した、新園舎のお話をさせていただきます。
まず、玄関の扉にはバディの園章である『かたつむり』のマークがついています。この園章には、子どもたち、そしてお母さん・お父さんたちにもゆっくり・じっくり・成長していってほしいという願いが込められています。かたつむりの園章には意味があり、目が赤色・殻が青色・体が黄色になっています。目が赤色なのは、日本を表していて、子ども達があらゆるジャンルのなかで、何か１つでも日本の代表になれるように。殻が青色なのは、空をあらわしていて、無限に広がる子ども達の可能性をイメージしています。体が黄色なのは子どもたちを表していて、「子は宝」健康でたくましく育ってほしいという願いを込めています。

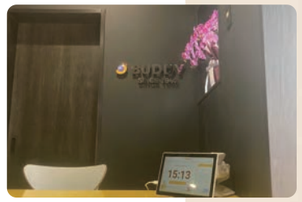
玄関を上がると、各教室を案内する矢印看板の標識があります。この矢印看板の色にはこだわりがあります。世界最大のスポーツイベントといえばオリンピックです。オリンピックのシンボルマークである五輪の色は、世界五大陸の平和を表しています。バディでは、未来ある子どもたちに、世界の扉をこの手で開けてもらいたいという思いで、各教室への矢印を五輪の色に分けました。各教室へ向かうと、扉のクラス名は五輪の色になっています。

各クラスの教室は、一周回れるような作りになっています。

子どもたちが雨の日でも思いっきり体を動かせるよう、教室とは別に、体育室があり、そこではボルダリングや球技、器械体操、ダンスなどが楽しめる空間になっています。バディでは、お父さん・お母さんのように、父性（男性教諭・体育）母性（女性教諭・保育）の両面からの指導を行なっております。夏には園庭の滑り台が、ウォーター滑り台に変身します。夏のプールの授業や冬のスケートにスキーは、いつも一緒に過ごす男の先生が主となり教えてくれるため、子どもたちは、安心して授業を受けることができます。
中庭を園庭として利用することで塀が不要となり、地域住民が行き交う前面道路との距離を無くし、体育室の大きなガラス開口から、子どもたちの様子を道すがら感じることができます。内側がガラス張りでできているため開放的で、どこの教室に居ても子どもたちの活動を見ることができます。中庭園庭は芝生広場となっており、０歳児・１歳児さんが裸足でも遊べるように工夫して作っています。また、それだけではなく、中庭園庭から続く螺旋階段を登ると屋上は一周走れるトラックのような空間が広がっているのも魅力のひとつです。

アップダウンがある事によって、遊びの中で身体の対応能力を養う事ができます。

そこでは朝登園してきた子から行う、朝体操の一環として、子どもたちが走り回れるスペースとなっています。日々の活動以外にも、先日雪が積もった日には、綺麗な雪で雪遊びを楽しみました。



デザイン性に優れ、園全体が遊び場で、子どもも大人も毎日が『ドキドキ』『ワクワク』できる、この空間は、まさにバディらしい、想いのつまった園舎となっております。

同志社大学 赤ちゃん学研究センター研究者　嶋田 容子

子どもの声が はっきり聞こえる 音環境へ

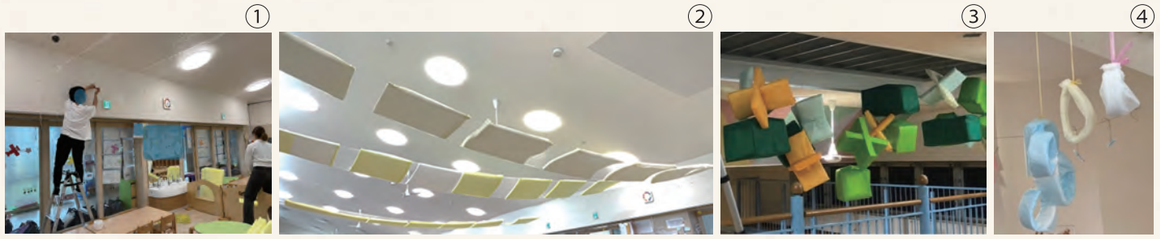
声を聞くことは相手の心を聞くこと、相手の心を尊重すること。ある園の先生の言葉です。園内の日々のざわめきの中で、一人一人の子どもの声を聴き、その声の色から心の揺れ動きも聴く・・・しかし、それができるのは、意外に少ない恵まれた環境でだけかもしれません。皆さんの園のいつもの午前のひととき、保育室の音風景を思い出してみてください。子どもたちの話し声や赤ちゃんの喃語は、そこここから一つ一つ、くっきりと、聞こえてくるでしょうか。それとも、なんとなくわーんとすべてが混じり合った音になっているでしょうか？

先生方はよくこんな風に言います。「保育室の中では会話できないので、打ち合わせは廊下に出てする」「帰りに園の外に出ると耳が楽になる」「喉がれは職業病だと思っている」「全体行事の後は耳鳴りがする」･･･でもずっとここでやってきたから慣れた、子どもも慣れている、大勢いるから仕方ない、と。しかし本当にそれでいいのか、考える必要があります。

大勢が集まれば、音量が大きくなるのは当然のことです。「適度ににぎやかなのは良いのでは？」と思った方も多いと思います。では、どれくらいであれば「適度」で、どのくらいであれば「問題」なのでしょうか。人が感じる音の大きさ「騒音レベル」は「デシベル」という単位で表されます。研究によると、周りの雑音が 75 デシベルを過ぎるあたりで「大人の会話が破綻」します。70 デシベルが” 騒々しい街頭や掃除機の音”、80 デシベルが” 地下鉄の車内の音” の大きさですから、明らかに「適度ににぎやか」ではありません。しかし残念ながら、音の響く保育室が 70〜90 デシベルの騒音レベルになることは珍しくありません。実は、WHO のガイドラインは、保育室の適度な騒音レベルを何と「35 デシベル」としています。日本の建築音響指針も最近、保育室で「50 デシベル」と新たに指針を示しました。しかし、現実にはこれが達成できる園は稀です。

◀音の大きさを測定するスマホアプリの例（デシベル X）

このような音環境で、子どもは何を感じているのでしょうか。そもそも、子どもは大人よりも、雑音の中で何かを聴き取ることが苦手です。このことは脳による音情報処理力に関係するので、普通の聴力検査の結果の良し悪しとは関係ありません。未就学児のほとんどが、大人に比べて雑音が苦手なのです。音のカオスはストレスにもなります。実際、多くの研究が、小学生や乳幼児の育ちに騒音が悪影響を及ぼすことを明らかにしています。言葉（文字・語彙・数字の読みなど）の発達が遅れたり、注意力が続かなかったり、学習性無力感が大きくなったり（解けない課題に苦労した後、解ける課題でも意欲が下がってしまうこと）、ストレスホルモンの値が高くなったり、そのほか様々な影響が報告されています。けれども、幼い子どもが自分で「にぎやかだと聞き取りにくい」「言葉が学びにくい」と気づいて訴えることは、ほとんどありません。一方でまわりの大人にしてみれば（自分は雑音の中でも知らず知らずのうちに脳が音を処理しているので）雑音で困ることはあまりなく、問題だとは思いません。子どもの雑音への苦手感はほとんど気づかれず、対処されにくいのです。目に見えない、大人には聞こえにくい騒音が、子どもたちの耳と脳には響いています。子どもに寄り添うとは、まず子どもの目や耳に入る風景を感知することから始まると私は考えています。ぜひ一度、子どもの耳で、園の音風景を聞いてみて下さい。



▲手造り吸音材の例。吸音するには音の上方向、つまり天井付近に付けるのが最も効果的です。①②は、透明のネットを使って天井付近にハンモック状に張っています。③と④は吹き抜けや階段で上下に抜ける音を抑えています

自園は音が響きすぎているかもしれない、と気づいたら、できる対策としては音を減らすことです。もし可能なら、業者に依頼して天井を「吸音天井」に貼り替えることを検討して下さい。保育施設向けの天井材や建具等を作る企業がありますので、相談されると良いと思います。コストはかかりますが、確実で、かつ園の労力も小さい方法です。ただし、私の知る限り、ほとんどの園では 100 万円単位のその予算は、簡単には出せるものではありません。そこで、私はこれまでご相談を受けたほとんどの園に、手造りの吸音材設置や、身近な材料で吸音することをおすすめしています。建築音響学の川井敬二先生（熊本大学）は、保育・教育の音環境整備のための研究と普及活動の先駆者で、海外で手造りの吸音素材が効果的に使われた事例も紹介されています。身近な材料でも、柔らかいもの（マットレス、カーペット、クッション等）の面積を多くすることで、室内の音の響きは和らぐのです。ロッカーや壁面などをキルトで覆うだけでも、多少の効果があります。

▲コーナーの棚の裏側に吸音材を貼り、おもちゃの響きを抑える

布類の使用が難しい（消防上の問題で布類を使えない地域もあります）、あるいはそれでは効果不足のようなら、「吸音ウール」の難燃性か不燃性のものを活用する方法があります。ちょうど良い大きさや形に切って、カラフルな不織布でおおってから、天井付近に吊したり、壁に貼ったりします。この方法だと、数万円のコストで大きな効果が期待できます。難点は、製作時間がかかること、水平面にホコリが付くのでたまに掃除が必要になることです。

加工済みの吸音材を販売するメーカーもあります（大きさやデザインにもよりますが工事よりは低コスト、手造りよりは高コストです）。オブジェのような吸音材や、ジーンズ素材のリサイクル繊維で造った吸音材など、ユニークな製品も見つかります。

「声を聞くことは相手の心を聞くこと」と語ってくれた冒頭の先生も、その思いから、園のあちこちに吸音材を取り入れ、声の聞こえる音環境を取り戻しました。子どもの耳にも声がよく聞こえ、互いの声と心を聞くことのできる部屋で、子どもも大人も過ごせることを願っています。

▲階段の手すりに吸音材を付けて上下の音の通りを抑える

公立発信

子どもと 保護者と 地域とともに
～心に寄り添った保育を～

志免町立志免南保育園 園長　佐山 薫

【はじめに】

志免町は福岡県の西部、福岡都市圏のほぼ中心に位置しており、福岡市または福岡空港に隣接した南北に細長く、県下では３番目に小さい町です。志免町総合福祉施設シーメイトの敷地内には国の重要文化財に指定された旧志免鉱業所竪坑櫓があり、夜にはライトアップされるなど町のシンボルになっています。

町内には私立保育園が５園、認定こども園が４園、小規模保育施設が１園、幼稚園が３園、町立保育園が２園あります。

本園は自然に恵まれ、春には町花の桜が満開になり、夏は蝉取りや水遊び、秋にはイチョウの葉や栗の実が落ち、冬は白い息を吐きながらも鬼ごっこや縄跳びなど子どもたちは広い園庭で四季を感じながらのびのびと元気いっぱいに遊んでいます。

【保育目標（子ども像）】

～丈夫な心身と豊かな心を育てる～

・健康で丈夫な子ども
・仲間を大切にして思いやりのある子ども
・よく考えて行動できる子ども
・感性豊かで意欲のある子ども

【園の取り組み】

（なかよしタイム）

毎月１回、年長児がグループに分かれ異年齢児クラスへ行くなかよしタイムでは、小さな子への思いやりの気持ちや、年長児へのあこがれの気持ちなど交流を通して心を育んでいます。

（ふわふわの木）

友だちの優しさや嬉しかったことなどをハートの紙に書いて、言語化する取り組みを行っています。
子どもたちの手形で作ったふわふわの木には沢山のハートの花が咲き、お互いを認め合うこと、優しさ、友だちっていいなという経験を積み重ねています。

（食育活動）

子どもたちが食に関心を持って美味しく食べることができるように、毎月栄養士による食育指導を行っています。季節の野菜を育て水やりなどのお世話をしたり、観察する中で野菜の葉に穴が開いているのはなぜかな？と疑問に思ったり、みんなで収穫の喜びを味わったりと、経験の中で沢山の気づきや学びがあります。またクッキング活動の中で様々な食材に触れ、調理する経験を通して食への興味関心が高まり、意欲的に食べることにつながっています。

（体育教室）

年長児クラスは週１回体育教室の講師から様々な体育指導を受けています。マット運動・跳び箱・ボール・縄跳び・鉄棒などをすることにより、身体の柔軟性や体幹を養っていきます。同時に、身体を動かす楽しさや様々なことにチャレンジする気持ちも育んでいます。
運動会では体育発表があり、保護者の方も楽しみにされています。

（職員の取り組み）

毎月の職員会議では人権擁護と安全管理での議題について話し合いを重ね、職員間での悩みを共有したり、子どもたちが安心して過ごせる環境作りに努めています。
また事故発生訓練では事故を未然に防ぐ為に保育を見直したり、事故が起こった時も慌てずに対応できる訓練を毎月行っています。

（保護者支援）

育児に対する不安や助言など、保育者の立場から育児相談に応じています。個人懇談や保育参観、誕生会、運動会、生活発表会などの行事にも沢山の保護者の方が参加され、子どもたちの成長を一緒に喜びあいながら、子育てが楽しめるようにしています。役場の母子保健係や心理士とも連携を取りながら、配慮が必要な子や家庭へのサポートを行い、関係機関とつながるパイプ役としての役割も果たしています。

【巡回指導】

心理士による定期的な園巡回や勉強会をし、一人ひとりに寄り添った対応を学び、保育に活かしています。また毎年２月には町立保育園の職員が一年間の特別支援保育の事例発表を行い、町内の私立保育園と一緒に学ぶ機会を作っています。

【地域交流】

柚の木福祉会や志免南小学校内にあるふれあいの部屋・園開放・消防署見学など一年を通して、地域の方との様々な交流や体験活動を行っています。

【地域支援】

志免町総合福祉施設シーメイトで毎月１回子育て広場を開催し、町立保育園の職員が地域支援を行っています。毎月沢山の方が参加されています。

【一時預かり保育】

仕事・病気・出産など一時的に家庭での保育が困難な時やリフレッシュなど、保護者の方のための保育サービスを行っています。

【おわりに】

町内でも古い建物の保育園になっていますが、歴史ある保育園です。卒園児も自分が育った保育園に我が子を預けたいと帰ってきてくれる心のふるさとにもなっています。これからも子どもと、保護者と、地域と、そして職員とともに安心した保育園でありたいと思います。

column

小学校の勤務経験から
～保育園と小学校の共通点など…思いこみ？～

植木こども園　園長 池田勇

＝はじめに＝

嘉麻市の小学校はじめ中学校や教育委員会学校教育課の嘱託等職員として１０年以上勤務した後、保育園等を運営する社会福祉法人で管理職として働いています。

小学校と保育園・こども園の職場を経験したことから、学校と園の共通点や異なりなどをご紹介したいと思います。しかし、大部分が個人的な思いこみや例外などたくさんありますので、ご了承ください。また、文責は著者本人にありますので、福岡県保育協会や広報部会への苦情等はお控えください。

＜共通点として＞

保育園等と小学校では、大きく共通していることがあります。それは、子どもと保護者などに関してのことです。

・特別な支援が必要な子どもへの対応
・多種多様な保護者からの要望など
・仕事量の多さ
・職員不足、病気等による退職者
・非常勤職員が支えている現場
・保育園等と小学校の連携

特別な支援が必要な子どもへの対応に相当の努力をしています。発達や成長を願い、先生方が日々努力しています。保護者のご理解とご協力をもとに、適時適切な保育や教育の機会が広がっています。しかし、保護者の理解を得ることができない場合は大きな問題となります。療育や特別支援、医療機関や行政サービスへつなげることができず、子どもに最適な保育教育ができません。

保護者からの多種多様な要望など、担任等への負担ははかりしれません。職員全員で協力し助け合いながら対応しています。

仕事量や給与に関して、小学校は公立で給与は高いのですが、仕事量の多さに対しての給与は、低いと感じている教員がいます。昨年、国でも教職員給与の改善が話題になっていました。園でも同様な思いをもった職員は少なくありません。子どもに関する職業全体の待遇改善は日本の課題です。

保育士不足は何年も前から社会問題になっています。昨年度、福岡県内の小中高校でも教職員約２００名が不足していました。病気等による休職や退職者が少なくありません。代替え職員を探すことは困難な状況となっています。

学級担任の業務を支えているのが講師はじめとする生活支援員（サポートが必要な児童の対応）等の非常勤職員です。園でも非常勤職員なしに運営はできません。

保育園等と小学校との連携は、お互いに意識が高く連携は深まっています。

＜異なり＞

設立主体や目的、対象児童などの違いから異なる部分があります。

・養護教員（保健室の先生）
・研修会
・日曜日の行事の代休
・子どもの長期の休み（夏休みなど）
・子どもと職員の関わり時間
・生活時間
・学級閉鎖や休校
・数年間隔の配属
・事務

保育園へ勤務し、最初に不安になったことは養護教員がいないことでした。薬品保管庫やベットはありましたが、看護師を雇っている園は限られています。幼い子どもは、急に体調不良となります。細かい体調管理が必要です。

園内研修会は全職員で行う場合、延長保育後の夜や日祝日となります。働き方改革の現在、難しく感じています。小学校では児童を早めに下校させ、会議等も可能です。地区単位の研修会も大部分が同様となります。

小学校や幼稚園等では、夏休み等の長期休暇があります。春休みがない状況で進級ができる保育園、驚きました。

子どもと職員の関わる時間、未就学児は常に保育士等と一緒に過ごしています。目を離した一瞬でケガや命に係わる事故が発生します。小学校は児童だけで過ごす休み時間などがあります。送迎や通学も同様となります。

生活時間は延長時間を含めると約１２時間、小学校は約 8 時間前後となります。長い時間子どもが過ごす園は、家族的な関わりとなっています。

インフルエンザ等の感染症での学級閉鎖や休校などの措置が取られますが、園は極力開園している必要があります。

小学校は数年間で配属先の学校が変わります。管理職はもっと短い年数です。複数の保育園等を持つ法人以外、配属先が変わることはありません。

請求業務がある園は、事務的な負担は毎年増え続けています。

＝おわり＝

保育園等と小学校、子どもや保護者に関する共通部分が多い。同様に同じ悩みや苦労をしています。子どもに関わる仕事、子どもの成長を願っていることなど同じ思いをもって常に最善を尽くしています。

小学校や教育委員会の職員だったころ、小学校１年生のスタートは最も気になっていたことでした。未就学児の子ども達のために、日々努力している各園の先生方、本当にありがたい存在で、大好きです。（こんなシメの言葉で大丈夫でしょうか？でも本心です！）

今年度より広報部会の委員となり、数回オンラインの会議に参加しながら、広報部会でいろいろと学ばせていただいています。

さて、2024年の新生児の出生数は、68.5万人で1899年の集計開始依頼初の70万人を下回ったという事です。少子化は継続しています。こども家庭庁の発足により少子化対策も実行されていますが、その成果があらわれるまでには時間を要します。この少子化の継続により、保育所をとりまく環境は常に変化しています。この変化の波に乗り遅れることなく、子どもたちの成長を第一に考え、情報を発進すると同時に、自身も情報を収集していくことが広報部会の委員としての歩みであると考えます。

今回原稿を書いていただいた皆様、編集にご協力いただきました皆様に御礼を申し上げます。

豊前市　清和保育園　園長　清原　聡

発行日　令和７年３月６日
発行者　万田　康
編集者　塚本　泰有
発行元　公益社団法人
福岡県保育協会
春日市原町 3-1-7
ＴＥＬ　092-582-7955
ＦＡＸ　092-582-7956

［全私保連推奨］各種団体保険制度

有限会社ゼンポ　公益社団法人 全国私立保育連盟　東京海上日動

ほいくのほけん・こどもえんのほけん

保育施設向け 4月1日～1年間（中途加入可能）　Web加入可能

「園賠償責任保険」「園児団体傷害保険（学校契約団体傷害保険）」「職員団体傷害保険（総合生活保険）」など、保育施設における最大リスクを補償する1番の主力保険制度です。

やくいんのほけん

社会福祉法人向け 8月1日～1年間（中途加入可能）　Web加入可能

社会福祉法人の役員の業務遂行に関する賠償リスクやマスコミ対応費用等のレピュテーションリスクに加えて、雇用関連トラブルによる法人への賠償リスクもオプション付帯可能な保険制度です。

えんじのほけん

在園児向け商品 4月1日～自動更新（中途加入可能）　Web加入可能

「園内外問わず24時間お子さまをお守りする傷害保険」「扶養者に万が一の場合の育英費用補償」など手厚い補償内容に加え、一般的な保険商品と比較して約65%の割引となっているため非常に割安な保険制度です。

しょうがくせいのほけん

卒園児向け商品 4月1日～自動更新（中途加入可能）　Web加入可能

24時間のおケガ等からお守りすることに加え、学校からの貸出タブレットを含め個人賠償責任保険など卒園後のリスクを補償します。本商品も一般的な保険商品と比較して約30%の割引となっているため割安な保険制度です。

取扱代理店　**有限会社ゼンポ**
TEL：03-3865-3881
FAX：03-3865-2806

引受保険会社　**東京海上日動火災保険株式会社**
担当課支社：公務二部 文教公務室　TEL：03-3515-4134

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険・会社役員賠償責任保険・レピュテーション費用保険（レピュテーション費用特約条項付　費用・利益保険）・雇用関連賠償責任保険の概要・団体総合生活保険（傷害保険）の概要についてご紹介したものであり、全ての事項を記載しているものではありません。保険の内容は各保険制度のパンフレットをご覧ください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。

連絡先

公益社団法人全国私立保育連盟指定／東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ　TEL 03-3865-3881　FAX 03-3865-2806

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10全国保育会館4階

無制限の動画や写真を通して、園と保護者の絆を深める連絡アプリ

全国私立保育連盟推奨（総代理店）

きっずノート

「きっずノート」は長く使い続けていただけるよう

初期費用0円・追加料金一切なし

＼すべての機能使い放題／

月額 5,500円(税込)のみ

無料体験実施中！

→ お申し込みはコチラ

ご相談・ご質問はお気軽に
きっずノートサポートセンター　TEL 03-3865-3886

23TC-007160　2024年2月作成